

## 診療科(講座)紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/pediatrics/index.html>

- 1) 小児の健全な発育・発達を支援するために、小児に係るあらゆる疾病を診る総合診療科です。
- 2) 一般小児科診療、小児救急医療から、未熟児・新生児、循環器、感染症、神経、血液・悪性腫瘍、腎・代謝・内分泌疾患などの特殊専門医療まで、幅広く研修出来ます。
- 3) 難治性疾患の病態や治療法を研究し、高度な医療を実践して、病める子供たちを救いたいと考えている皆さんに加わっていただきたいと思えます。

## 指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)  
細矢 光亮

昭和52年 山形県立山形東高等学校卒業  
昭和58年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 小児感染症  
2) 小児神経疾患  
研究分野  
1) 中枢神経系感染症の診断と治療  
2) 急性脳症の病態解明と治療  
3) 小児感染症の臨床疫学研究

### 学会活動

- 1) 日本小児科学会 代議員  
日本小児科学会 予防接種・感染対策委員会 副委員長
- 2) 日本小児感染症学会 副理事長
- 3) 日本感染症学会 評議員
- 4) 日本神経感染症学会 理事



副部長(准教授)  
川崎 幸彦

昭和56年 福島県立福島高等学校卒業  
昭和62年 福島県立医科大学卒業  
平成3年 福島県立医科大学大学院卒業  
臨床専門分野  
1) 小児腎臓病  
2) アレルギー  
3) 感染症  
研究分野  
1) 慢性腎炎の発症、増悪機序の解明  
2) 気管支喘息におけるRSVの影響  
3) 脳症や髄膜炎の発症病態の解明



講師 佐野 秀樹

昭和62年 福島県立会津高等学校卒業  
平成6年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 小児血液腫瘍(造血幹細胞移植も含む)  
研究分野  
1) 小児固形腫瘍、神経芽腫の病理学的研究  
2) 小児悪性腫瘍に対する抗がん剤多剤併用療法の多施設共同臨床研究



総合周産期母子医療センター  
副部長(兼)准教授  
桃井 伸緒

昭和54年 福島県立福島高等学校卒業  
昭和60年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 小児循環器  
研究分野  
1) 先天性心疾患  
2) カテーテル治療



講師 陶山 和秀

平成2年 福島県立福島高等学校卒業  
平成8年 聖マリアンナ医科大学卒業  
平成12年 福島県立医科大学大学院修了  
臨床専門分野  
1) 小児腎臓病  
2) アレルギー  
研究分野  
1) 慢性腎炎の発症、増悪機序の解明



准教授  
橋本 浩一

昭和60年 福島県立安積高等学校卒業  
平成4年 福島県立医科大学卒業  
平成8年 福島県立医科大学大学院修了  
臨床専門分野  
1) 感染症  
研究分野  
1) ウイルス感染症の診断と治療  
2) 呼吸器感染症の病態解明



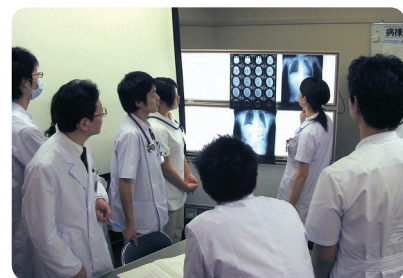
講師 佐藤 晶論

昭和63年 福島県立相馬高等学校卒業  
平成8年 福島県立医科大学卒業  
平成12年 福島県立医科大学大学院修了  
臨床専門分野  
1) 小児感染症  
研究分野  
1) インフルエンザ(ウイルス感染症)の病態解明と制御  
2) ウイルス感染症における免疫応答  
3) 中枢神経感染症の病態解明



臨床腫瘍センター  
小児腫瘍部門長(兼)講師  
菊田 敦

昭和49年 福島県立福島高等学校卒業  
昭和56年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 血液疾患、悪性腫瘍疾患  
2) 造血幹細胞移植  
研究分野  
1) 小児血液・悪性腫瘍疾患の病態解明と治療開発  
2) 顆粒球輸血



カンファレンス

## 後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	大学病院にて、未熟児・新生児グループ、循環器グループ、感染症・神経グループ、血液・腫瘍グループ、腎・アレルギー・代謝グループをそれぞれ3ヵ月間まわり、各グループで主治医として入院患者を受け持つ。頻度の高い疾患について、診断及び治療を学び、基本的な医療面接、診察、検査、治療、指導法を修得する。
2年次	前半は1年次に引き続き、大学病院にて、各グループをまわりながら、基本的な医療面接、診察、検査、治療、指導法を修得する。後半は、大学病院あるいは関連病院にて、プライマリケア、小児救急医療、未熟児・新生児医療などの経験を重ねる。
3年次	関連病院にて、頻度の高い疾患や小児救急疾患については、主治医として多数の患者を受け持ち、一般小児医療の経験を重ねる。また、指導医のもと、未熟児・新生児医療、特殊専門医療などを体得する。
4年次	関連病院にて、それまでの経験を活かし、主治医として多彩な患者を受け持つとともに、初期研修医や2-3年次の後期研修医の指導も行う。小児医療全般についての広い知識と経験を背景に、各種健診や母子保健指導などの小児保健活動を実践する。

## 大学院・留学について

本人の希望により、大学院への進学が可能である。

また、意欲のあるものは、診療・研究レベルの一層の向上を目指し、国内・国外において、研修(留学)することが出来る。

## 専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本小児科学会専門医取得には、初期研修終了後、日本小児科学会認定教育施設での3年間の研修記録と経験した30症例の症例要約を提出し、筆記試験および口答試験に合格する必要がある。当大学病院と、後期研修協力病院13施設は、日本小児科学会認定教育施設である。

専門医取得に必要な技能・手技目標は、下記の通りである。

- 1) 小児の各年齢的特性を理解し、正しい手技による診察を行い記載する。
- 2) 注射、採血、導尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺、蘇生、胃洗浄、静脈点滴などの技能を修得する。
- 3) 患児の問題を正しく把握し、病歴、診察所見より必要な検査を選択し、診断をくだす。
- 4) 患児の性、年齢、重症度に応じた適切な治療計画を速やかに立て、これを実行できる。
- 5) 小児科学一般にわたる疾患を大きな偏りなく受け持つて診療に従事し、受け持った症例30例の病歴を要領よくまとめる。各分野群毎に、少なくとも2症例を含む。  
[遺伝疾患、染色体異常、先天奇形、栄養障害、代謝性疾患、消化器、先天代謝異常、内分泌疾患、免疫異常、膠原病、リウマチ性疾患、感染症、新生児疾患、呼吸器疾患、アレルギー、循環器疾患、血液疾患、腫瘍、腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、神経疾患、筋疾患、精神疾患(精神・行動異常)、心身症]

その他の専門医取得は、各学会の規定による。当科は、日本腎臓学会認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本血液学会認定教育施設、日本周産期新生児医学会認定基幹研修施設などであり、日本腎臓病学会専門医、

日本感染症学会専門医、ICD認定医、日本アレルギー学会専門医、日本血液学会認定医、日本小児神経学会認定医などの取得が可能である。

## 後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	公立藤田総合病院	国見町	大西 周子	科長
2	大原総合病院	福島市	鈴木 重雄	部長
3	福島赤十字病院	福島市	弓削田英知	部長
4	寿泉堂総合病院	郡山市	佐藤 知子	部長
5	星総合病院	郡山市	佐久間弘子	部長
6	福島県総合療育センター	郡山市	富樫 薫	センター長
7	公立岩瀬病院	須賀川市	塚越 哲	副院長
8	国立福島病院	須賀川市	氏家 二郎	院長
9	白河厚生総合病院	白河市	根本 健二	科長
10	塙厚生病院	塙町	菅野 晶夫	副院長
11	竹田総合病院	会津若松市	長澤 克俊	科長
12	坂下厚生総合病院	会津坂下町	青木 英子	部長
13	公立相馬総合病院	相馬市	伊藤 正樹	部長

## 指導医からのメッセージ

少子化が進行する中、大切な子供は小児科専門医に診察してもらいたいという認識が高まり、小児科医のニーズは近年ますます増えています。このような中、当科では次世代を担う子供たちの身体的、精神的な健康を守るべく、臨床と研究の両面で、共に働き、勉強し合える医師を募集しています。

小児科医は、子供の成長、発達、健康を全人的に診療する総合診療医であることから、当科では県内に広がる関連病院と連携して、一般臨床に強い小児科医の育成に力を入れています。加えて、医学の進歩に伴い小児疾患の概念が多岐に別れ、それに対する治療についても高い専門性が要求されている現状を鑑みて、各専門領域(新生児、循環器、血液・悪性腫瘍、神経・感染症、泌尿器・代謝・内分泌・アレルギー)の指導医のもと、最新の知識と治療を研修できるプログラムを実践しています。また、必要に応じて、国内および国外へ留学し、さらに知識を高めることも可能です。

将来、一般小児科医を目指す場合でも、専門性の高い疾患をバランスよく診ておくことは重要なことであり、それが実現できる当科では、一般病院や偏った専門性をもつ大学病院では得られない研修をすることが可能です。

おらかな自然が残る福島の地で共に研修し、その高い空の下を駆け回る子供たちの健康を守ることを志す研修医が数多く集うことを期待しております。